第２回避難所生活（宿泊）体験

協力：岡崎市防災課

７月 26 日（金）、市民生活部防災課の河合則夫さん・藪田幸久さんを講師にお迎えし、「やろまい実践訓練！災害への備えと行動」をテーマに、本校では２回目となる「避難所生活（宿泊）体験」を実施しました。有事の際の避難所生活を一晩体験し、食事や住空間の確保、睡眠などの基本的な生活の不便さを実感するだけでなく、避難した高齢者をはじめ、学区の弱い立場の人たちが心地良く過ごすため、高学年（５・６年）の児童に何ができるのかを考える機会にすることを目的に行う予定でしたが、台風６号（ナーリー）が東海地方に接近する恐れがあったため、実施内容（宿泊を除く）・時間を変更して実施しました。開講式に続き、食器作り、昼食作りの活動に入りました。段ボールで食器を作り、炊飯袋を使ってご飯を炊きました。子どもたちは、ご飯が炊けるか半信半疑でしたが、炊きあがったご飯にカレーをかけておいしく食事をいただきました。また、簡易トイレや、停電備えて「あんどん作り」など生活用具の作り方、火災から身を守る方法などを学び、ミニハウスや着衣燃焼実験なども見せていただきました。

この体験学習を通して、避難した自分だけではなく、集まった人々が居心地良く過ごすために、自分は何ができるかを考える良い機会になったと思います。

“令和最初”「夏の甲子園」　全国高等学校野球選手権大会

今年で 101 回目を迎え、令和最初となる全国高等学校野球選手権大会（通称：夏の甲子園）は、「新たに刻む、ぼくらの軌跡」をキャッチフレーズとして、８月６日に開幕し、８月 22 日の決勝戦で大阪の履正社高校が石川の星稜高校に５対３で勝って初優勝（大阪勢の優勝は２年連続）を果たしました。毎年、この甲子園で繰り広げられる数々のドラマが生まれ、多くの人々に感動を与えてくれます。なぜ、「夏の甲子園」には、多くの人々が心を動かされるのでしょうか。それは、球児の甲子園にかける思いや心の熱量が関係していると言えます。負ければ、球場を去らなければならない状況下で、中途半端なプレーはできません。それぞれのチームが全力でプレーし、そしてドラマを生み出しているのです。そうした球児たちの姿勢が、見ている人々に感動を与えるのでしょう。

❤ Happy Birthday　９／３‥米田　梨花さん